

科目名	3D・CAD(アーキキャド)Ⅱ						
科目名(英)	3D・CAD(ArchiCad)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山崎 孝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科3年						
授業概要	■ArchiCadは3次元モデルを組み上げながら図書を作成するところに特徴があり、作成する3次元モデル(3階建ビル)は平面図・立面図・断面図・パースでの変更など全てが連動しているので出来上がったデータのプレゼンテーションへのスムーズなビジュアル表現を修得する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	△	○			ArchiCADソフトの使い方を理解し、使用出来るようになる		
	△	○			ビジュアル表現におけるイメージの具体化する表現方法を2D・3Dで作図する事ができる		
	△	○			製図の基本に則して建築物の配置図及び平面図を作図することができる。		
	△	○			製図の基本に則して建築物の断面図及び立面図を作図することができる。		
	△	○			製図の基本に則して建築物の完成予想図(パース)を作図することができる。		
テキスト・教材 参考図書	GRAFHISOFT Archi Cad-(Magic1・2)+オリジナル資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	BIM(ArchiCad)の基本と仕組みArchiCadの画面構成説明とツールボックス練習			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	2	BIM(ArchiCad)の基本と仕組みArchiCadの画面構成説明とツールボックス練習			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	3	ArchiCadの画面構成説明とツールボックス練習後3階建ビルをArchiCad練習			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	4	ArchiCadの画面構成説明とツールボックス練習後4階建ビルをArchiCad練習			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	5	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(通り芯・フロア設定・敷地・柱・梁・壁をかこう)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	6	4階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(通り芯・フロア設定・敷地・柱・梁・壁をかこう)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	7	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(建具・窓・床・階段をかこう)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	8	4階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(建具・窓・床・階段をかこう)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	9	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(1階にテーブル椅子やピアノ等を配置する)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	10	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(2階にテーブル椅子やピアノ等を配置する)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	11	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(1階カフェが完成したら2階・3階を仕上げる)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	12	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(1階カフェが完成したら2階・4階を仕上げる)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	13	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(3階が完成したら樹木・車・人等で背景仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	14	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(4階が完成したら樹木・車・人等で背景仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	15	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(ビュー登録で全景パースと室内パース仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	16	4階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(ビュー登録で全景パースと室内パース仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	17	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(ビュー登録で平面図・立面図・断面図仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	18	4階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(ビュー登録で平面図・立面図・断面図仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	19	3階建ビルをArchiCadで仕上げ練習(プレゼンボード2種提出評価後フライスル)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	20	3階建ビルをMagic2で町並み仕上練習(外部図面で都市レイアウトで背景仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	21	3階建ビルをMagic3で町並み仕上練習(外部図面で都市レイアウトで背景仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	22	3階建ビルをMagic2で町並み仕上練習(ビュー登録で全景と室内パース仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	23	3階建ビルをMagic3で町並み仕上練習(ビュー登録で全景と室内パース仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	24	3階建ビルをMagic2で町並み仕上練習(ビュー登録で平面図・立面図・断面図仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	25	3階建ビルをMagic3で町並み仕上練習(ビュー登録で平面図・立面図・断面図仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	26	3階建ビルをMagic4で町並み仕上練習(ビュー登録で平面図・立面図・断面図仕上)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	27	3階建ビルをMagic2で町並み仕上練習(プレゼンボード2種提出評価後フライスル)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	28	3階建ビルをMagic2で町並み仕上練習(プレゼンボード2種提出評価後フライスル)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	29	3階建ビルをMagic2で町並み仕上練習(プレゼンボード3種提出評価後フライスル)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	30	3階建ビルをMagic2で町並み仕上練習(プレゼンボード3種提出評価後フライスル)			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プレゼンボード前半課題提出		◎		◎		50%
	プレゼンボード後半課題提出		◎		◎		50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	就職実務ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	各担任		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					就職活動における企業研究が行うことができる	
	○					自己分析を行うことができる	
	○					作品集を作成し就職活動ができる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック 社会人研修ノート						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	2	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	3	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	4	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	5	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	6	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	7	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	8	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	9	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	10	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	11	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	12	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	13	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	14	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
15	社会人研修						
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	出席状況				◎	60%	
	受講態度・意欲	○	○			30%	
	課題の提出	○	○			10%	
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	建築士対策（計画）						
科目名(英)	Architectural Planning						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行 美枝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科3年						
授業概要	以下の項目について基本知識を理解し習得する。気象 換気 伝熱 日照 音響 色彩 住宅 商業建築 公共建築 給排水設備 電気・照明設備 消火・防災設備						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				2級建築士出題範囲である 伝熱計算、露点温度等のグラフが読める。	
	○	○				日照・日射・採光の図形を見て、出題問題の正解が導き出せる。	
	○	○				建築物に付随する設備についての種類や役割が説明できる。	
	○	○				建築の歴史において、建築物の名称、建築家名、建築様式につて正解を選択できる。	
○	○				住宅から公共建築物まで、特徴や都市における役割など、正解を選択できる。		
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築計画 総合資格 厳選問題集500+100。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 気候					
	2	第2章 伝熱・結露			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	3	第3章 日照・日射・採光 第4章 音響			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	4	第5章 色彩			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	5	第6章 環境工学融合			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	6	第7章 空気調和設備			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	7	第8章 給水設備			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	8	第9章 排水衛生設備			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	9	第10章 電気・照明設備			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	10	第11章 消火・防災設備			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	11	第12章 設備融合			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	12	第13章 建築史 第14章 計画一般			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	13	第15章 住宅			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	14	第16章 商業建築 第17章 公共建築			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
15	第18章 地域計画 第19章 各論融合			今までの復習プリントで復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること						
	(2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	復習問題	○	○				20%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする。						

科目名	建築士対策（法規）						
科目名(英)	Building regulations						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	今泉		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科3年						
授業概要	学科Ⅱで出題される以下の項目について基本知識を理解し習得する。建築基準法 パリアフリー法 耐震改修法 建築士法 都市計画法 品確法						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	△			法令集の準備が完了している。使用方法が理解している。	
	○	○				面積・高さ等の算定方法 構造強度 防火関係 防火構造等 概要が説明できる。	
	○	○				建築物に付随する設備についての種類や役割が説明できる。	
	○	○				建築の歴史において、建築物の名称、建築家名、建築様式につて正解を選択できる。	
○	○				法令集を使用して、各章の答えを導かせることができる。		
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築法規 総合資格 厳選問題集500+100。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 総則	用語の定義	面積・高さ等の算定方法			
	2	第1章 総則	確認済証の交付		復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	3	第1章 総則	手続き等(中間検査等)		復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	4	第2章 一般構造等	一般構造	建築設備	復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	5	第3章 構造強度			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	6	第4章 防火関係	防火構造等	法22条区域内の建築物	復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	7	第4章 防火関係	耐火・準耐火建築物	防火・準防火地域	復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	8	第4章 防火関係	防火区画・間仕切壁	内装制限等	復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	9	第5章 都市計画区域等の制限	道路・壁面線		復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	10	第5章 都市計画区域等の制限	用途地域		復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	11	第5章 都市計画区域等の制限	容積率・建ぺい率		復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	12	第5章 都市計画区域等の制限	高さの制限	日影規制	復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	13	第6章 雑則			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	14	第7章 その他の関係法令	パリアフリー法	耐震改修促進 法	復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
15	第7章 その他の関係法令	建築士法	都市計画法	その他の 復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること						
	(2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	復習問題	○	○				20%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする。						

科目名	建築士対策（構造）						
科目名(英)	Building construction						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	学科Ⅲで出題される以下の項目について基本知識を理解し習得する。構造物と力 静定構造物の応力トラス 断面の性質 座屈 荷重 木構造 鉄筋コンクリート構造 鉄骨構造 特殊構造 建築材料概要。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				工事契約の仕組を理解し、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				鉄筋コンクリート造の施工方法に関する、建築士問題が解ける	
	○	○				鉄骨造の施工方法に関する、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				防水工事～設備工事の施工方法についての過去の建築士試験問題が解ける	
○	○				積算に関する知識を試す問題が解ける。		
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築構造 総合資格 厳選問題集500+100。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 構造物と力			第1章テキスト内の問題を事前に回答しておく		
	2	第2章 静定構造物の応力			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	3	第3章 特定トラスの応力			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	4	第4章 断面の性質			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	5	第5章 応力度と許容応力度			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	6	第6章 変形と不静定構造物			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	7	第7章 荷重・外力			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	8	第8章 地盤と基礎構造			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	9	第9章 木構造			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	10	第10章 鉄筋コンクリート構造			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	11	第11章 鉄骨構造			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	12	第12章 その他の構造			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	13	第13章 構造設計			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	14	第14章 建築材料			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
15	第14章 建築材料			今までの内容を復習する			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること						
	(2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	復習問題	○	○				20%
履修上の注意	出席60%以上が単位付与の条件・						

科目名	建築士対策（施工）						
科目名(英)	Building Construction						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	以下の項目について基本知識を理解し習得する。 工事監理 施工業務 仮設工事 鉄筋工事 鉄骨工事 木工事 設備工事 建築積算 測量 工事契約						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				工事契約の仕組を理解し、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				鉄筋コンクリート造の施工方法に関する、建築士問題が解ける	
	○	○				鉄骨造の施工方法に関する、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				防水工事～設備工事の施工方法についての過去の建築士試験問題が解ける	
	○	○				積算に関する知識を試す問題が解ける。	
テキスト・教材 参考図書	日建学院2級建築士学科受験テキスト 学科IV施工						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 工事契約					
	2	第2章 工事監理・施工業務			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	3	第3章 地盤調査・測量 第4章 仮設工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	4	第5章 土工事・基礎地業工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	5	第6章 鉄筋コンクリート工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	6	第7章 鉄骨工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	7	第8章 コンクリートブロック工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	8	第9章 木工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	9	第10章 防水・屋根工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	10	第11章 左官工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	11	第12章 タイル・張石工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	12	第13章 塗装工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	13	第14章 建具・ガラス工事 第15章 内装・断熱工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	14	第16章 ユニット工事 第17章 設備工事			復習問題で復習 プリントは次回まで提出 解説と一緒にファイリング		
	15	第18章 用語・機械 第19章積算			今までの内容を復習する		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	復習問題	○	○				20%
履修上の注意	出席60%以上が単位付与の条件・						

科目名	建築士対策Ⅱ(製図)						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	今泉清太		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	2級建築士2次対策レベルに関する 各建築構造の基礎知識から応用を身に着ける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○			RC建築構造の課題の特徴、出題傾向が説明できる。		
	○	○			S造の課題の特徴、出題傾向が説明できる。		
	○	○			各構造の矩計図、断面図の理解し、各部の名称が答えられる。		
	○	○			建築士2次試験問題を限られた時間で描ける		
テキスト・教材 参考図書	総合資格 2級建築士 設計製図 テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	近年の試験対策について 全体概要説明			事前にテキスト確認する		
	2	設計製図試験の概要 学習のポイント			前回学習したことを復習する		
	3	本試験出題のイメージ..			エキスと巻末の表現補法を確認		
	4	計画の要点の概要			前回学習したことを復習する		
	5	鉄筋コンクリート造(RC造) 概要			前回学習したことを復習する		
	6	ラーメン構造 構造 計画			前回学習したことを復習する		
	7	ラーメン構造 配置計画と外部動線			前回学習したことを復習する		
	8	ラーメン構造 平面計画			前回学習したことを復習する		
	9	鉄筋コンクリート造 課題文の読み取り、			前回学習したことを復習する		
	10	鉄筋コンクリート造 ケーススタディ エスキスの進め方			テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する		
	11	鉄筋コンクリート造 要求図面の描き方(ラーメン構造)			テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する		
	12	鉄筋コンクリート造 立面図			テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する		
	13	鉄筋コンクリート造 断面図			テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する		
	14	鉄筋コンクリート造 部分詳細図			テキスト巻末にある答案例確認し表現補法確認する		
	15	鉄骨造(S造)					
	16	鉄骨造(S造)(RC造) 概要			6月下旬に課題発表 特徴等事前調査を指示する。		
	17	純ラーメン構造 構造 計画			法令集持参、関連法規に注意させる		
	18	純ラーメン構造 配置計画と外部動線			建築計画テキストを持参させ、プリントと照らし合わせる。		
	19	純ラーメン構造 平面計画			建築構造テキストを持参させ、プリントと照らし合わせる。		
	20	鉄骨造(S造) 課題文の読み取り、			事例をもとに解説、プリントうはファイリングの支持をする。		
	21	鉄骨造(S造) ケーススタディ エスキスの進め方			11月下旬に課題発表 特徴等事前調査を指示する。		
	22	鉄骨造(S造) 要求図面の描き方(純ラーメン構造)			12月下旬に課題発表 特徴等事前調査を指示する。		
	23	鉄骨造(S造) 立面図			図面のチェックと修正		
	24	鉄骨造(S造) 断面図			図面のチェックと修正		
	25	鉄骨造(S造) 部分詳細図			図面のチェックと修正		
	26	チャレンジ課題② 課題読み合わせ ポイントライン引き			図面のチェックと修正		
	27	チャレンジ課題② 作図演習			図面のチェックと修正		
	28	チャレンジ課題② 作図演習			図面のチェックと修正		
	29	チャレンジ課題② 作図演習			図面のチェックと修正		
	30	まとめ 整理			演習問題れんけいする。		
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	練習課題	○	◎				30%
	チャレンジ課題②	○	◎				70%
履修上の注意	出席率60% 未満者 単位付与しない。						

科目名	専攻ゼミⅡA(必修選択)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	板野		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	前期の授業を踏まえ、各年代の代表的な建築物の分析・考察を通して、自分なりの住宅設計プロセスを組み立て、プレゼンテーションできる力を更に重点的に知識を深め、よりリアルな形にする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				目標		
	○				前期の調査を元に問題点、課題点の解決ができる。		
	○				計画立案からの設計プロセスの流れまで一通り実行できる。		
	○				各年代の建築物の特徴、課題点を分析し、応用ができる。		
	○	○			1年間の総決算として住宅建築設計のプレゼンテーションを完成させる。		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション「プランニングを考える」					
	2	前期の作品の振り返りをし 問題点を突き詰める					
	3	前期の作品の振り返りをし 問題点を突き詰め(グループディスカッション)					
	4	発表と講評、ディスカッション					
	5	前期課題の作り直し					
	6	再分析・再評価					
	7	再分析・再評価、次課題の説明					
	8	作り直しにおいて「デザインの基本とは」話し合う。					
	9	発表と講評、ディスカッション「デザインの基本」					
	10	後期課題1について説明					
	11	再分析・再評価					
	12	再分析・再評価、次課題の説明					
	13	課題2 前期に変えて有名建築1(戸建て住宅)に学び、考える					
	14	発表と講評、ディスカッション「建築の評価」					
	15	課題3の作り直し			前回授業内容の復習と、未完の作業がある場合は次回までに作業を終えておくこと		
	16	再分析・再評価					
	17	再分析・再評価、次課題の説明					
	18	課題4 有名建築2(戸建て住宅)に学び、考える					
	19	発表と講評、ディスカッション「建築デザインを学ぶ(建築設計の進め方)」					
	20	課題4の作り直し					
	21	再分析・再評価					
	22	再分析・再評価、次課題の説明					
	23	課題5 有名建築(戸建て住宅)に学び、考える					
	24	発表と講評、ディスカッション「建築デザインを学ぶ(建築設計の進め方)」					
	25	課題6の作り直し					
	26	再分析・再評価					
	27	再分析・再評価、次課題の説明					
	28	課題7 有名建築(戸建て住宅)に学び、考える					
	29	発表と講評、ディスカッション「建築デザインを学ぶ(建築設計の進め方)」					
	32	発表と講評					
	評価方法	出席率及び提出作品(期限、完成度)に加え、ディスカッション時の積極性(発言回数、意見内容の整合性)により評価する。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		提出作品	○				80%
		発表・ディスカッション	○		○		20%
履修上の注意	出席率60%が単位付与の条件						

科目名	専攻ゼミⅡB(必修選択)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉村 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	作成した模型を用い、実務に近い建築工事を体験し、教員が実際に工事を行った体験や資料を利用し、現場実務とほぼ同内容の作業を体験するとともに、建築施工管理試験の過去問題の考察をもって試験対策も行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○			目標		
	○	○			2級施工管理士国家試験問題レベルの知識を有する		
	○	○			各工事の検討すべき事項に留意し、施工作業に取り組むことができる		
					実務適応レベルの各縮尺模型(木造、鉄骨造、コンクリート造)を作製できる		
テキスト・教材 参考図書	施工図入門書籍もしくは講師にて準備						
授業	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自己紹介レクレーション 自己及び友人の紹介を行う					
	2	建築施工、実務全般の話(業界のしくみ)、質疑応答			疑問点の見直し、探究		
	3	CAD設計(木造設計図) ※CADのおさらい			授業内で終えられなかった作業は次回授業までに終わらせておくこと		
	4	過去問題 設問解答・解説、質疑応答					
	5	縮尺模型にて実務に近い経験をさせる(木造、鉄骨造、コンクリート造)			疑問点、失敗箇所の見直し		
	6	過去問題 設問解答・解説、質疑応答					
	7	縮尺模型にて実務に近い経験をさせる(木造、鉄骨造、コンクリート造)			疑問点、失敗箇所の見直し		
	8	過去問題 設問解答・解説、質疑応答					
	9	縮尺模型にて実務に近い経験をさせる(木造、鉄骨造、コンクリート造)			疑問点、失敗箇所の見直し		
	10	過去問題 設問解答・解説、質疑応答					
	11	縮尺模型にて実務に近い経験をさせる(木造、鉄骨造、コンクリート造)			疑問点、失敗箇所の見直し		
	12	杭工事検討のポイント説明					
	13	杭計画図(立面)を基に実際に施工してみる			疑問点、失敗箇所の見直し		
	14	CAD杭計画図(立面)の作成			授業内で終えられなかった作業は次回授業までに終わらせておくこと		
	15	CAD設計(木造小屋付図2F)			授業内で終えられなかった作業は次回授業までに終わらせておくこと		
	16	仮設足場検討のポイント説明 1					
	17	仮設足場図(平面)を基に実際に施工してみる			疑問点、失敗箇所の見直し		
	18	CAD仮設足場図(平面)の設計			授業内で終えられなかった作業は次回授業までに終わらせておくこと		
	19	CAD設計(木造小屋付図1F)			授業内で終えられなかった作業は次回授業までに終わらせておくこと		
	20	仮設足場検討のポイント説明 2					
	21	仮設足場図(立面)を基に実際に施工してみる			疑問点、失敗箇所の見直し		
	23	CAD仮設足場図(立面)の作成			授業内で終えられなかった作業は次回授業までに終わらせておくこと		
	25	CAD設計(木造軸組図、北面)			授業内で終えられなかった作業は次回授業までに終わらせておくこと		
	27	縮尺模型にて実務に近い経験をさせる(木造、鉄骨造、コンクリート造)			疑問点、失敗箇所の見直し		
	28						
	29	今期授業のまとめ、復習					
	評価方法	過去問題対策テストの点数、実務対応レベルの模型完成度、施工取り組み姿勢(安全管理)、実務レベルと比較した技術習熟度により評価する。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
小テスト			○	○		10%	
模型完成度			○	○		30%	
施工取組姿勢・技術習熟度			○	○		60%	
履修上の注意	出席率60%が単位付与条件						

科目名	卒業制作						
科目名(英)	Architectural Diploma design of Housing and Urban Planning majors						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	板野純		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	専攻ゼミⅡで選択した専門知識を活かして本講義・演習は、今まで学んできた建築学・計画学の積み重ねの集大成として位置付けている。社会問題や環境問題、身の回りの課題など、テーマを自由に設定し、それを「建築」という手段で解決に向かう一連の作業である。また指導に際しては、その一連の作業が社会で仕事を遂行する訓練として位置付けており、基本的な作業(準備、段取り、調査、説明など)から評価の対象とする。また、自分の意思表現でもあるプレゼンテーションにおいては、厳しく指導を進めることとする。人に伝えるとは何か、また、建築が解決できることとは何か、常に物事の本質に向かう姿勢を大切に指導を行うものとする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				対象敷地を定め、周囲環境、コンテキスト等を調査しまとめることができる。		
		○			建築計画を立案し、具体的な設計内容を、ダイアグラムや図面、模型を作成しまとめることができる。		
			○		客観的・多角的な目線で計画内容を再検討し、ブラッシュアップすることができる。		
				○	計画案について魅力的に発表することができる。		
				○	他者の作品に対し、的確にアドバイスすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	テキスト:なし, 参考図書:建築設計資料集成、新建築および各種建築書籍資料等						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス:卒業制作の概要と前期作業内容の解説			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	2	エスキス:テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	3	エスキス:コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	4	エスキス:計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	5	発表:取り組む課題とその計画案について発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
	6	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	7	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	8	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	9	発表:計画内容の詳細発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
	10	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	11	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	12	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)			スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	13	発表:最終発表(PC+プロジェクター/1人5分程度)			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
	14	最終成果手直し			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
15	最終成果手直し+最終提出			講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。			
評価方法	課題作品、エスキスチェック、発表を、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品	○	◎		○		80%
	エスキスチェック	○	○		◎		10%
	発表	○	○		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	数学ゼミⅢB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田麻美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築工学科 3年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				文字式・連立方程式の応用問題が解ける	
	○	○				連立方程式を用いて応用関係式が解ける	
	○	○				1次関数のグラフと関係式が解ける	
	○	○				図形の性質と条件を用いて応用問題が解ける	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【応用問題演習】 式の計算 文字式の利用、等式の変化				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【応用問題演習】 連立方程式 文章問題(代金、速さ、割合、自然数)					
	3	【応用問題演習】 1次関数 グラフと図形					
	4	【応用問題演習】 1次関数 1次関数の利用					
	5	【応用問題演習】 図形の性質と合同 三角形の合同条件と証明					
	6	【応用問題演習】 図形の性質と合同 角の二等分線がつくる角					
	7	【応用問題演習】 三角形と四角形 性質と条件					
	8	【応用問題演習】 三角形と四角形 図形の面積					
	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	BIM 専攻ⅢB(選択)						
科目名(英)	Building Information ModelingⅢB						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇 力		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築CAD科・2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。 ・各用途の建築計画的理解と表現。 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			ゾーンツールを使ってボリュームスタディができる。	
			○	○		BIMワークフローにより効率よく設計ができる。	
		○	○			BIMを活用したプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入カガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	課題: 複合ビル「制作②」			情報、資料収集を行うこと		
	2	課題: 複合ビル「制作③」			情報、資料収集を行うこと		
	3	課題中間報告(発表)			発表資料の確認を行うこと		
	4	課題: 複合ビル「制作④」			タイムスケジュールの確認を行うこと		
	5	課題: 複合ビル「制作⑤」			タイムスケジュールの確認を行うこと		
	6	課題: 複合ビル「制作⑥」			タイムスケジュールの確認を行うこと		
	7	課題: 複合ビル「制作⑦」			必要提出資料の確認を行うこと		
	8	課題プレゼンテーション(発表)「プレゼン資料提出」			必要提出資料の確認を行うこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎		○		50%
	課題提出		◎		○		50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。						